（幼稚園）

人とかかわる力を育てるための環境の工夫

－地域の人や異年齢の人との交流を通して－

浦添市立教育研究所　教育研究員

浦添市立当山幼稚園　玉　城　妙　子

目　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 …… 1

Ⅱ　めざす幼児像 …… 2

Ⅲ　研究の目標 …… 2

Ⅳ　研究の仮説 …… 2

Ⅴ　研究構想図 …… 2

Ⅵ　研究内容
1　幼児期における人とのかかわり …… 3
2　環境の工夫 …… 5
3　子どもの発達と人間関係 …… 5
4　「人とのかかわり」年間指導計画 …… 7

Ⅶ　授業実践
1　「人とかかわる」活動の展開計画 …… 8
2　実践例 ①「遊ぼう会」 …… 9
3　実践例 ②「おじいさん・おばあさんとあそぼう」 …… 11
4　実践例 ③「中学生との交流」 …… 13
5　検証保育　一日体験入園 …… 16

Ⅷ　研究の成果と課題
1　成果 …… 19
2　課題 …… 20

おわりに

引用・参考文献

人とかかわる力を育てるための環境の工夫

―地域の人や異年齢の人との交流を通して―

浦添市立当山幼稚園　玉城妙子

【要 約】

本研究は、幼児が異年齢交流を体験することによって培われる内面の育ちを、「人とのかかわり」の側面から捉えた。このような異年齢とふれあう豊かな体験を年間指導計画に位置付け、幼児の実態に合った環境や援助の在り方を工夫しながら実践することができた。その結果、子どもたちが喜んでかかわり、生き生きとした姿を見せてくれた。又、自己を発揮しながら相手を受け入れる中で社会的態度が養われ、人とかかわる力が育ってきた。

キーワード　□人とかかわる力　□異年齢交流　□思いやり　□相互の関係

Ⅰ テーマ設定の理由

幼児期は，人間として生きていくために大切な様々なものが芽生えてくる時期である。この時期にどのような生活経験をし、それをどのように積み重ねてきたかによって，人間としての生き方に大きく影響するものといわれている。

幼児教育振興プログラムの中にも「幼児期は、大人への依存と信頼を基盤として情緒を安定させて自立に向かう時期であり、その過程で、幼児は、生活や遊びの中で具体的な体験を通して社会で生きるための最も基本となることを獲得していく。」と述べられている。

しかし、近年は小子化や核家族化、情報化が進み自然に触れて遊ぶ機会や人とのかかわりも希薄になってきている。かつてのように多くの友達と遊ぶことが少なくなり、仲間集団は小規模なものになっており多人数でのダイナミックな遊びは影をひそめている。また、異年齢遊び集団も減少し、年上から年下への遊びの伝承が困難となっている。さらに遊び場所の室内化である。テレビゲームをしたり，ビデオを見たりしていることで直接体験による感動が乏しくなってきている。

本園においても，教師や友達の指示まちの子，気の合う友達の中では遊べるが、その友達がいないと遊びが見つからず一人でいる子、知識は豊富でも友達の中にうまく入れなかったり、自分らしさを友達の中でどう出していいのかわからず戸惑っている子などさまざまである。そのような実態から、幼稚園で、積極的に幼児の心を揺り動かすような豊かな生活体験の機会を設けることが必要と感じ、友達とのかかわりや、祖父母など高齢者とのかかわり、小学生や新入園児とのかかわりについて、実践してきた。

幼児が自己発揮し，友達と一緒にいるのが楽しいと感じられるようになるには、教師と幼児、幼児同士の人間関係を深めることが大切となる。教師は幼児の言動や表情、行動から幼児の内面を読みとり、幼児のさまざまな心をありのまま受け止めて、認めたり、共感したり、励ましたりなどの適切な援助を工夫しなければならない。教師と幼児の温かい心のつながりや雰囲気があると、人に対して自分から関心を持ってかかわり、のびのびと活動できるようになる。幼稚園では，生活や遊びの中で十分友達とふれ合ったり、豊かな感情体験が得られるようにすることで心身の発達が促され，生きる力や人とかかわる力の基礎が培われていくと考える。

そこで、地域との結びつきを工夫したり、異年齢・異世代交流・未就園児との交流などを通して、人への思いやりや優しさ，人と触れ合うことの楽しさ，人を受け入れる喜び、受け入れられた喜びから満足感や充実感を味わうことができる機会を計画的に位置づけていきたいと考え，本テーマを設定した。，

Ⅱ めざす幼児像

○心豊かで、思いやりのある子ども
○互いに認めあい，共感できる子ども

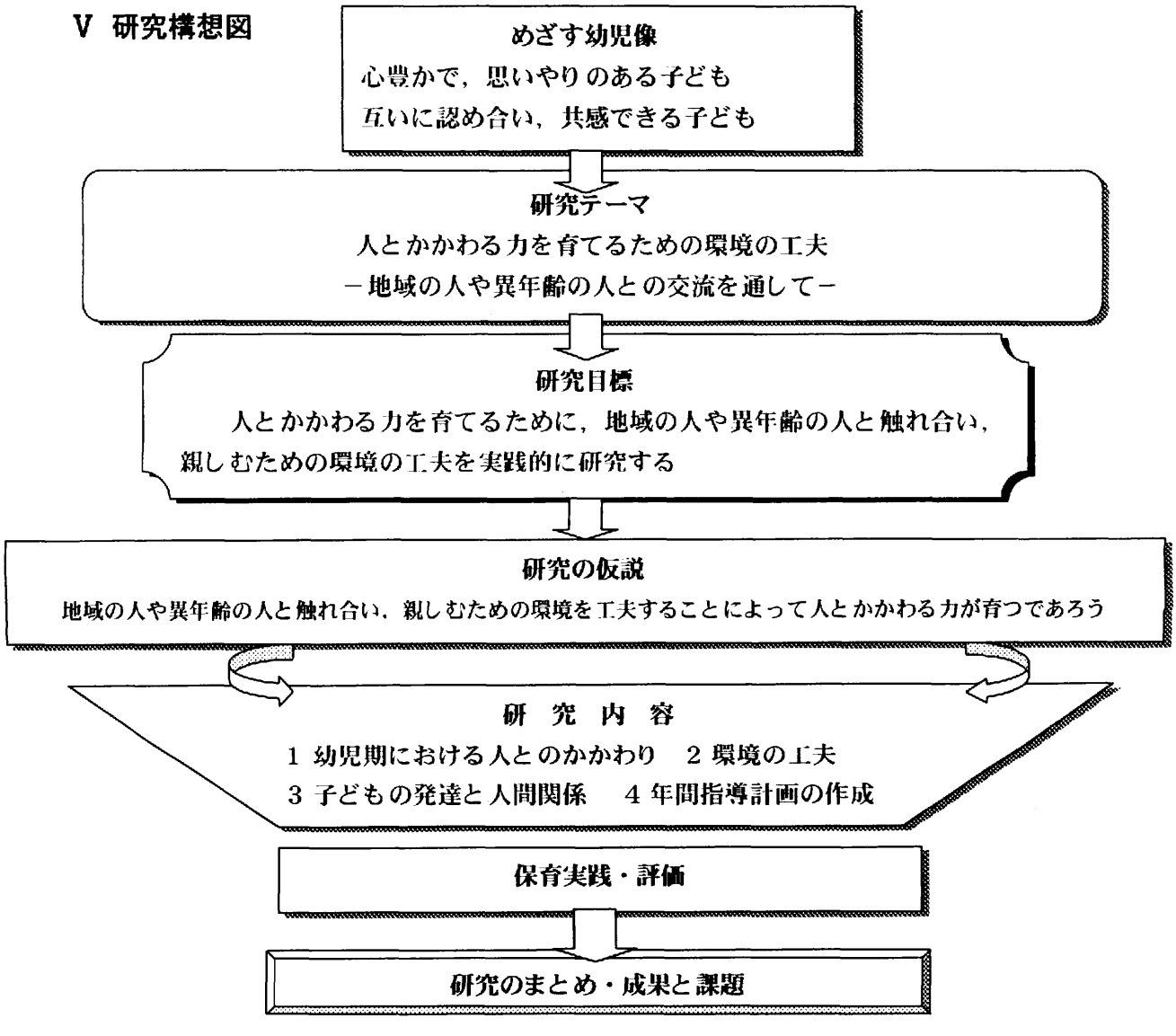
Ⅲ 研究目標

人とかかわる力を育てるために，地域の人や異年齢の人と触れ合い，親しむための環境の工夫を実践的に研究する。

Ⅳ 研究の仮説

地域の人や異年齢の人と触れ合い，親しむための環境を工夫することによって人とかかわる力が育つであろう。

Ⅴ 研究構想図



Ⅵ 研究内容

1　幼児期における人とのかかわり

(1) 人とかかわる力の育ち

「人とかかわる力の基礎は、自分が親や周囲の人々に温かく見守られているという安定感から生まれる人に対する信頼感をもつこと、さらに、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる。幼稚園生活においては、なによりも教師との信頼関係を築くことが必要であり、それを基盤としながら様々なことを自分の力で行う充実感を味わうようにすることが大切である。また、幼児は、幼稚園生活において多くの他の幼児や教師と触れ合う中で、自己の存在感や自分とは違った様々な人への積極的な関心、共感や思いやりなどをもつようになる。また，こうした生活の中で自分の感情や意志を表現しつつ，他の人々と共に生活する楽しさや大切さを知り，そうした生活のために必要な習慣や態度を身につけて行くことが、人とかかわる力を育てることになるのである。」

（幼稚園教育要領解説より）

(2) 人と関わる力の育ち　領域『人間関係』三つの柱の捉え

人とのかかわりに関する領域「人間関係」

［ 他の人々と親しみ，支え合って生活するために，自立心を育て，人とかかわる力を養う。］

ねらい

(1)幼稚園生活を楽しみ，自分の力で行動することの充実感を味わう。

(2)進んで身近な人とかかわり，愛情や信頼感をもつ。

(3)社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

＜ねらいを考えるキーワード＞

○　自立的生活態度

園生活において，自分でやらなければならないことがたくさんある。幼児なりにやっている姿を受けとめ，自分でできることへの喜びや充実感を味わえるように支えていく。

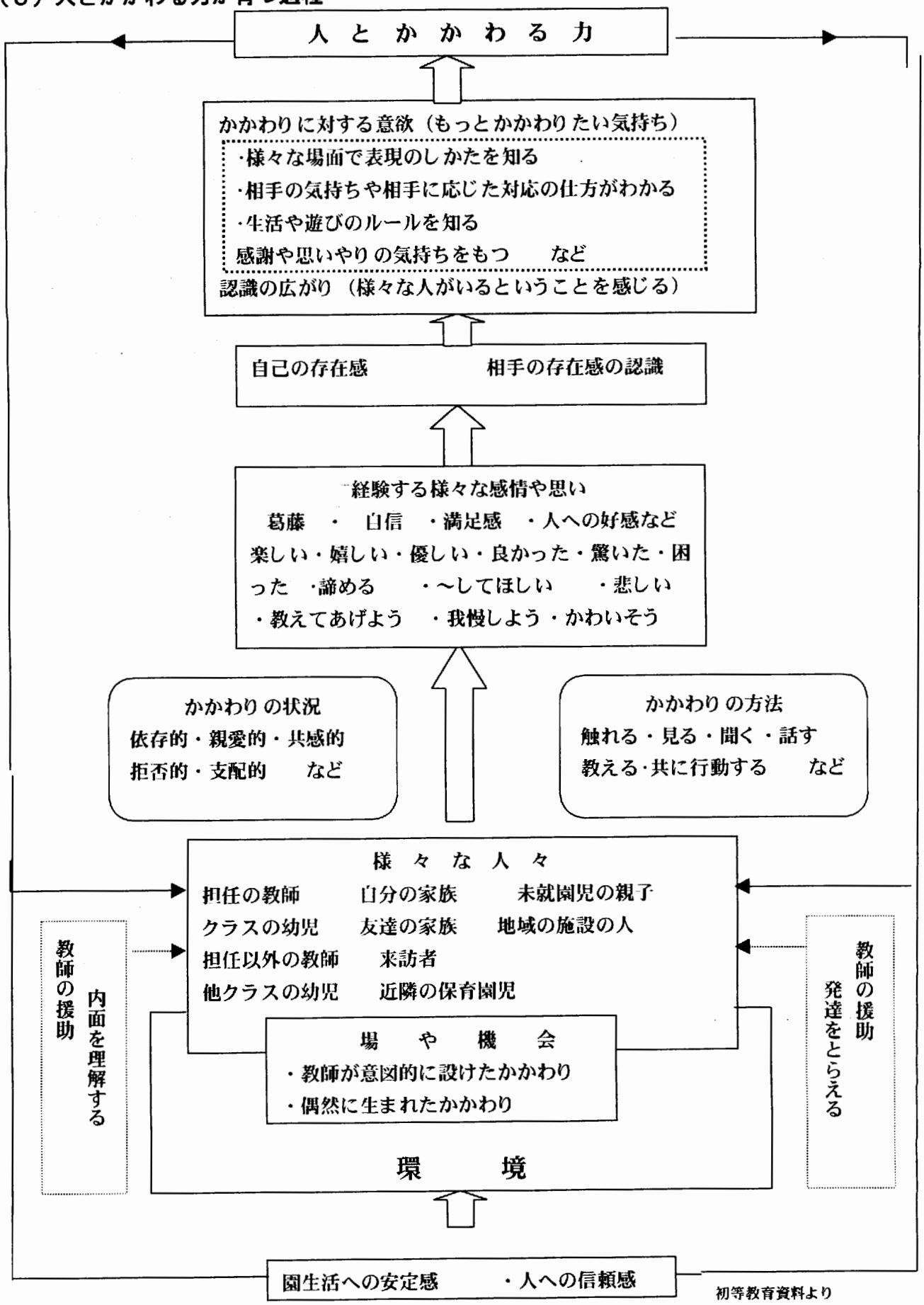
○　人との信頼関係

園生活の中で，自分が周囲の人から温かく見守られているという安心感をもつと，幼児は人とのかかわりを求めていこうとする。その中で自分の思いどおりにならなかったり楽しい体験をしたり様々な感情体験をする。いろいろな人や様々な場面に進んでかかわり，出会いを重ねながら相手の思いに触れて，幼児が自分の存在を意識していけるように支えていく。

○　社会生活における習慣や態度の育成

園生活や身近な生活の中で，かかわりが広がったり深まったりしていくうちに，友達と楽しく生活するためには，きまりがあることに気づいて行くようになる。身近な大人が，モデルとなることを意識し，幼児が自分で判断し行動していけるように支えていく。

（3）人とかかわる力が育つ過程



初等教育資料より

2　環境の工夫

環境を通して行う教育において，教師は様々な役割を担っている。一人一人の幼児に対する理解に基づき，環境を計画構成し，幼児の主体的な活動を直接援助すると同時に，教師自らも幼児にとって重要な環境の一つになっている。幼児にとって人的環境が果たす役割は極めて大きい。幼稚園の人的環境は，担任の教師だけではなく，幼児の周りの教師や友達すべてが環境となる。さらに，幼稚園教育要領の領域「人間間係」にも，内容の取り扱いとして「(4) 幼児の生活と関係の深い人々と触れ合い，自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ，共感し合う体験を通して，高齢者をはじめ地域の人々などに親しみをもち，人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また，生活を通して親の愛情に気付き，親を大切にしようとする気持ちが育つようにすること」というように多様な人々とかかわる体験が幼児の生活にとって必要であるとしています。

多様な人々の捉えとして，保護者・祖父母・小学生・中学生・未就園児の親子・浦添市国際交流課の国際交流員（米国人）・地域の施設の人々など，広く捉える。

環境を構成するとき，教師は幼児の活動の流れに即し，幼児と意見やアイディアを話し合ったり，一緒に考えたり，ときには幼児が気づいていない環境に気づかせたり，幼児の思いやイメージを生かしながら行います。そうすることで，幼児が自ら環境を構成していく力をはぐくむことがができ，主体性を育てることができる。

環境を構成するには＜幼児の発達の時期を考える＞＜興味や欲求を考える＞＜生活の流れを考える＞ことが大切である。

3　子どもの発達と人間関係

本園は，五歳児一年保育ですが，未就園児との交流を通して，0 歳から 4 歳までの幼児と出会うことになり，その年齢の「子どもの発達と人間関係」を教師間で共通理解していく。

時期	発達・課題	人　間　関　係
0 歳児	基本的信頼感	・対人関係のはじまり～人の顔に興味を示す。 ・乳児は，母親の声・顔・匂い・ 肌触りを覚え，側にいると安心し，見えなくなると不安を感じて泣く。これが愛着関係（アタッチメント）の成立で，今後の人間関係がつくられる基礎になる。 ・人の表情やリズムのある語りかけに反応しながら，積極的に周囲の大人に働きかけ対人関係を作っていく。大人には乳児の反応を適切に受け止め，返してやることが求められる。大人による応答的な対応が乳児の「人とかかわる力」を育てていく。
1 歳児	好奇心旺盛 発見・感動・伝達・共感	・歩行の自立や言葉の獲得によって，人間関係が広がる。 ・大人とのコミュニケーションも少しずつとれるようになり，子どもは他者に対する信頼感や安心感を感じ、人とかかわり合うことの楽しさを知るようになる。このことは，友だち関係を作っていく上で大切である。 ・仲間はともに遊びを楽しむ友だちであり、いたわる相手であり、時には模倣の対象になる。 ・自分の周りの世界に自分の手で触れるようになり，「新しい発見」の感動です。そして，感動を伝達するときに一緒に感動し，共感していくことが，人の心が分かる子に育つ。

2 歳児	友達への関心が芽生える	・運動能力の進歩から，身体を使っての活動が活発になり，自分の身体がどのくらい動くのか，人とどれくらいぶつかったら自分が痛いのか，相手が泣くのかを知る。又，同じような遊びをするだけで相互交渉は行われていない。 ・自分の年齢に近い子どもへの興味が増え、自分から「かかわろう」という気持ちをもって働きかけるようになるが，まだ『友だち』という意識はない。大人が子どもと，子どもを結ぶ媒介者となってお互いの行動を言葉でおきかえてやりながら、自分と他者の存在を意識し自分の思いや相手の思いがあることに気づかせていく。
3 歳児	自我・個性の芽生え 友だち関係が芽生え、けんかやいざこざが多くなる	・自己主張期は，自分らしさを発揮し，心を素直に行動に移して欲求を主張することである。押さえつけないで，きちんと保障することで，豊かな自己表現ができるようになる。 ・3 歳児はもっとも「その気になりやすい。」時期，誘えばすぐに，「ファンタジーの世界」（ごっこ遊び）に入っていく。しかし，3 歳 児にとって役割分担を自分たちで決めることは，とても大きな課　題，それでもみんなと遊ぶほうがおもしろくて楽しいから，我慢すること，諦めること，待つことなどを学んでいく。 ・自分よりも弱い者、小さい子を叩くこと、人の物を壊したり奪ったりすることなど、人としていけないことをしたら、分かりやすい言葉できちんと伝える。
4 歳児	社会性の芽生え 友達関係が広がる おせっかいと仲間意識	・人生で初めて人の役に立ちたいと思う心が芽生える時期。また、積極的に対人関係を持とうとする“社会性”が芽生えていることでもあるので，支え合って生きる人間になるために大事なこと，素敵なものとして認める誉めてあげる。 ・子ども同士のかかわりには、大人のかかわりが重要である。“友だち関係”をより深めていくために子どもの気持ちの代弁や問題解決を援助していくことが大切である。 ・「ごっこ遊び」で，子どもたちはいつもと違う，大人のことばを使って，それぞれの役割のもつ意味や内容を学んでいる。
5 ～6 歳児	友達へのかかわりが積極的になる 遊びのグループが育つ	・友だちへの関わりも積極的になり，その関係も深まる。自己コントロールしながら活動を楽しみ，問題も自分たちで解決しようとする。 ・友だちのとらえも具体的で「優しい」「おもしろい」等 特性を表す言葉と行動とを子どもなりに結び付けている。相手を理解し自分の行動について考えていけるような、大人の援助が重要である。 ・ルールの大切さを知り，ルールを守ることで遊びが成立する事を知る。 ・葛藤やつまづきの場面で，大人は，子どもと一緒に悩んでしっかり会話して、自分自身で乗り越える体験を支えていく。 ・お互いに親しみを持ち，個性を活かして仲間の役に立とうとする集まりの中で，集団の一員としての自覚が育つようになる。

4「人とのかかわり」年間指導計画

期	Ⅰ　期	Ⅱ　期	Ⅲ　期
月	4月5月 6月 7月	9月　10月 11月 12月	1月 2月 3月
発達過程	○ 教師とのかかわりや気のあう友達とのかかわりを通して安定し自分で遊びを広げていく時期。	○ 自己の力を発揮しながら，友達とのつながりを深めグループやクラスのまとまりが出てくる時期 。	○友達同士で活動を展開しながら友達を思いやったり自己を抑制しようとする気持ちが生まれる時期。
ねらい	★　地域の子どもたちに遊び場を提供すると共に、未就園児と一緒に遊び、親しみの気持ちをもつ。	★身近な人々と触れ合い、遊びの伝達などを通して、温かい触れ合いができ、尊敬の気持ちや思いやりの心をもつ。	★異年齢児とかかわり遊ぶ中で、お互いに受け入れたり、受け入れられたりする喜びを味わう。
内容	○未就園児との出会いを喜ぶ ○ 一緒に遊び、楽しさを味わう	・隣接の小学生、中学生、祖父母との交流、幼稚園に招き、一緒に遊びを楽しむ。 ・ジュリアンさん（国際交流員）と遊ぶ。	・新入園児との交流、遊びのコーナーで触れ合う ・近隣園の保育園児と触れ合う ・五年生と給食会 ・小学校めぐり
環境構成及び援助	○温かい雰囲気づくりをする。 ○幼児の言動をゆったりとした気持ちで受けとめたり、遊びの場や時間等を十分に確保する。 ○水や砂など自然の素材を使い身体を使って活動できるようにしておく。 ○未就園児に対して親しみをもって優しく接していけるようにする ○自分の思いが通じなかったり、受け入れなかったりする体験をすることにより、相手の存在に気づき、関心を持ってかかわっていけるようにする。 ○ティーム保育のよさを生かし、互いの情報を交換し、多面的に幼児を知るように努める。	○いろいろな道具や用具を使ったり、集団的な活動を通して身体を動かすことができるような環境の構成にする。 ○世界の地図や国旗などを見ながら外国と日本の違い、位置などを知らせていく。 ○自分から進んで運動したり、力を試したりする姿を認め、自分なりの目的をもち、自信をもって行動できるようにする。 ○友達とのつながりが深まるように仲立ちをしながら意見を出し合ったり、ルールを考えたりしていく。 ○地域の人や異年齢の人とふれあう機会を大切にし、人との触れ合いに楽しさや喜びを感じとっていけるようにする。 ○異年齢との触れ合いの中で、多くの人に支えられていることの気付き、充実感を味わったり、トラブルや葛藤を乗り越える力も育つよう援助する。	○ 遊び慣れた遊具や素材の使い方を工夫し、自分たちで遊びを考えたり、遊びの場をつくったりできるよう、共に構成する。 ○友達の良いところやおもしろいところ、工夫しているところを伝えお互いに刺激し合って遊びの広がりや深まりがもてるようにする。 ○ 友達同士で話し合う機会や発想を生かして遊びを進めていけるように援助する。 ○ 新入園児等、年下の人と接すことで自分の力に気づいたり役に立つ喜び感じたり相手に合わせることを学んでいく。それを子どもが意識できるように伝えていく。

7

Ⅶ 保育実践

1「人とかかわる」活動の展開計画

行事名 時期	ねらい	内容
・未就園児との触れ合い 「遊ぼう会」 6／2～3／2 ・新入園児と遊ぼう会 1／18 ＜行事への招待＞ 映写会・おだんご作り・生活発表会見学・カレー作り	・年下の子ども達との触れ合いを通して思いやりの心を育てる。	実地方法 ： 月に1 ～2 回 ・幼稚園児と未就園児が一緒に遊ぶ ・幼稚園児の遊びの様子を見てもらう ・未就園児と保護者への遊びの指導や子育てについての話をする。
・小学生とのふれあい 「交流会」 10月 ・五年生との給食試食会 ・小学校めぐり 2月 一年生の教室・図書館 保健室・校長室 他 ・読書クラブによる 「読み聞かせ」 ＜行事への参加＞ 運動会・演劇鑑賞会 10月　1月	・小学生とのかかわりを通して，親しみを持ってかかわれるようにする。 ・就学に期待が持てるようにする。 ・絵本の楽しさを共有する	・幼稚園生と小学生が一緒に遊ぶ。 ・五年生と交流し，一緒に給食をいただく。 ・小学校の行事に参加したり，見学したりする。 ・小学生「読書クラブ」の児童が園にきて紙芝居・絵本を読む。
・ 中学生とのふれあい 「交流会」(12月)	・中学生とのかかわりを通して親しみや憧れの気持ちを持ってかかわれるようにする。	・幼稚園生と中学生が一緒に遊ぶ。
・高齢者とのふれあい 「おじいさん・おばあさんと遊ぼう会」(9月)	・お年寄りへの尊敬と感謝の気持ちを育てる。	・伝承遊びを教えてもらい一緒に遊ぶ。(竹トンボ・水でっぽう・ソテツの虫かご・アダンの風車等)
・国際交流員（ジュリアンさん）との交流。	・アメリカから来たジュリアンさんについて知り，親しみを持つ。	・異文化に触れる。
・近隣保育園との交流 「広栄保育園」との交流会	・同年齢の子ども達とのふれあいを通して，思いやりの心を育てる 。	・幼稚園児と保育園児が一緒に遊ぶ。 ・「五年生との給食試食会」に一緒に参加する。 ・「小学校めぐり」に一緒に参加する。

・児童センター・浦添市立図書館・浦添市立美術館 （6 月）　（１１ 月）	・地域の人々とのふれあいを楽しむ。 ・公共のマナーを守る。	・園外保育を利用して地域の施設に出かけ，幼稚園では得られない体験をする。
・「お茶会」へ参加 （浦添ハーモニーセンター）	・「お茶」の作法を聞いたり・お茶をいただいたりして，日常と異なる雰囲気を楽しむ。 ・	「お茶会」に招かれ，ハーモニーセンター のお茶室 を見学したり，お茶をいただいたりする。
・お母さん達による 『読み聞かせ』 ボランティア	・絵本に親しむ。また，共通の体験を通し心が豊かになる。 ・話す力，聞く力が養われる。	・毎週月曜日の朝の時間に「読み聞かせ」をしてもらう。

2　実践例①　「遊ぼう会」

日時　　平成１３年　９月８日　（木）　９：３０～１１：００

対象者　未就園児（0 歳～4 歳）の親子　　園児　１２５人

ねらい　・水や泡の感触を味わい，未就園児と楽しく遊ぶ。

　　・未就園児と一緒に映写を楽しむ。

環境の工夫　・未就園児の発達や時期・興味・関心を考え遊びを設定する。園児も未就園児も砂・土・水など自然物に直接触れ，その感触を楽しんだりすることが 大好きである。身近な自然に触れたり，見たりして遊ぶことを楽しめるように 園庭に色 水・ミニプール・しゃんぼん玉 ・石けんクリームなどの遊びのコーナーやペットボトルなどの材料も用意しておく。石けんクリーム作りや色水に園庭の草花が使えるようにする。又，子どもの興味や遊び方などの変化に応じて必要な環境を再構成する。

＜活動の展開＞

・ 受付の準備をしている教師の手伝いをしながら、未就園児がやってくるのを心待ちにしている。未就園児の親子がやってくると「名前は?」「好きなシールを貼ってください」と、名札やカードを渡す。名札をつけてもらい笑顔の未就園児,未就園児の多くが園児のきょうだい組である。

<色水遊び>

・未就園児のY 子ちゃん，姉（園児）に手取り足取り作り方を教えてもらっている。きれいな色水に満足した様子で教師にも見せた。

＜石けんクリーム作り＞

・園児も興味を持って取り組んでいる.。材料の入ったワゴンを準備してさっそく作り始める。おろし器で石鹸を削るのも，か

なりの集中力が必要だ。泡立てる時の水加減も心得ているK子スプーンを使って上手にやっている。側にいるお母さん達も感心している。スポンジに泡立てたクリームをぬって,草花を飾って完成だ。S子は、得意そうに小さい子に作ってあげる。クリームを分けてもらい一緒に作り、「おいしそうな、かわいいケーキができた」と,喜んでいた。
「本格的なままごと」とお母さん達も感動していた。泡の感触や味わいながら、お互いに楽しんでいる。

<ミニ・プール>
・園児も未就園児も,子どもは水遊びが大好きである。水着やパンツ姿になってはしゃいでいる。「H子の妹と、水鉄砲での的当てが、楽しかった」とY子。ミニ・プールで転ばないように優しくリードしている園児たち。手でピチャピチャたたき水が飛び散るのを楽しんだり、ペットボトルのシャワーで水をあびたりして、水の感触を味わっている。「プールから出よう」と言ってもなかなか出てこない，未就園児の子ども達。
多くの未就園児が遊び、お母さん達も一緒になって楽しんでいる。

<映写会>
・園庭で遊んだ後は、みんなで集まって広い保育室で映画を見る。映画を見る前に未就園児の自己紹介や手遊びがあり、「かわいい」と園児も喜んでいた。微笑ましい雰囲気で始まる。
暗い保育室で,お姉さんのひざに座ったり,お兄さんと手をつないで隣に座ったり、「やっぱり、お母さんの側がいい」と言う子など、自分の好きな所で、「UFO国の交通安全」の映写を見ることができた。

<おしゃべりの場>
お母さん達の交流する場を意識してベランダにゴザを敷く。
ベランダに座ったり、園庭の木陰などで自由におしゃべりを楽しんでいる。

<考察>
・子ども達と一緒に、準備を進めていくことで、幼児も参加しているという気持ちがわき,未就園児がやってくるのを期待して待つ姿が見られた。一緒に準備をしたり、「００は、どうしたらいいかな。」と相談しながら進めたことも,幼児の意欲的な姿につながり，小さい子が喜ぶようにと思いやりの気持ちを持ってか

かわっていた。
・各コーナーとも園児がお兄さんお姉さんぶりを発揮し,「色水の作り方教えてあげた」「石けんクリームが余ったから，ケーキを作ってあげた。」「S 子の妹とプール遊びして楽しかった」など，遊び方を教えてあげたり,遊びを共有したりしていた。.又、未就園児のお母さんから「お姉さん。」「譲ってもらってありがとう。」という言葉を言ってもらい、認めてもらう充実感や満足感を味わっている。
・きょうだいや知っている小さい子が来るので関心を持っている子、あまり気にしない子,自分達の遊びに来て欲しい子など、かかわり方は様々である。K男は、普段より積極的に小さい子にかかわり、相手の気持ちを受け入れて優しく接していた。
・未就園児の親子にとって,幼稚園が遊びの場の提供や遊びを伝える、地域の子どもの成長を促す場になった。交流会後も数人のお母さん達が自由に話し合っている様子が見られ、悩みや経験を交流する場、子育ての楽しさを実感する場になったと思われる。

3　実践例②「おじいさん・おばあさんと遊ぼう」

日時　　平成1３年　9月1４日　（金）午前9：３０～1１：００
対象者　園児の祖父母と父母
ねらい　お年寄りへの信頼感と感謝の気持ちを育てる。
内容　　昔の遊びを教えてもらい，一緒に遊ぶ。
（竹トンボ・ソテツの虫かご・水でっぽう・アダンの葉の風車・お手玉）

《環境の工夫》
昔の遊びを教えてもらい，一緒に遊ぶ（竹トンボ・ソテツの虫かご・水でっぽう・アダンの葉の風車・お手玉,）ソテツの葉・とげなしアダン・竹（太い・細い）などの身近な自然の素材，その他の材料布・糸・豆・竹串など，園庭やベランダにそれぞれ遊びのコーナーを準備する。又，すぐに作ったもので遊べるように水を準備しておく。園庭の点検をしておく。
＜活動の展開＞

各コーナーに分かれて作る。
＜竹とんぼ＞
・竹とんぼの先生T 子のおじいさん、小刀で上手に削っている。側では、「じっと」見つめている。「エーイ」と飛ばすとよく飛ぶので子ども達は、喜んで遊んでいた。

＜水でっぽう＞
・「よく作ったよ。」と、懐かしそうに話している。
作った水でっぽうでさっそく試している。「シュッ・シュッ」と、勢いよく遠くへ飛ぶので，何度も繰り返し遊んでいる。「おじいさん，すごいね。」と言われて，目をほそめて見守っていた。人気のある遊びだった。

＜ソテツの虫かご＞

・M男のおばあさんは、三段式のかごを上手に作っていた。実際にバッタを捕まえて虫かごに入れていたS男,「見て,おじいさんが、作ったんだよ。バッタもいるよ」と、得意そうに見せていた。K男のおばあさん「いなかでは，山イチゴを採って帰るのが楽しみだった。」と話してくれた。K男が　嬉そうに寄り添っている。

＜アダンの風車＞

・風に向かってグルグルよく回っていた。

・H男のおばあさん、風車の他に 指輪・メガネ・時計・ブレスレット等，楽しんで作っている。

＜お手玉＞

・小豆を入れるのは園児の役目，おばあさん達は手際よく上手に作っていた。お母さん達に作り方を教えている様子が，微笑ましい。

＜クラスでの様子＞

・祖父母に自己紹介をしてもらう。子ども達からも「小さい時は，どんな遊びをしていましたか？」など,質問があり，「昔は自分達で，遊ぶものは,全部作ったよ。こまや凧もつくったよ。」と，にこにこと丁寧に教えて下さった。他の祖父母も，うなづいていらっしゃる。S子のおじいさんは，「来年は，幼稚園生が，いないので，招待状を出して下さい」との申し出もあり，みんなから拍手をもらっていた。

・一緒におやつをいただきながらおしゃべりをしていく中で，なごやかな雰囲気になっていく。最後にみんなでカチャーシーを踊り会を閉じる帰る時，「幼稚園生と握手すると，とても元気がでますね。」と，園児の手を強く握るおばあさんもいらしゃった。

考察

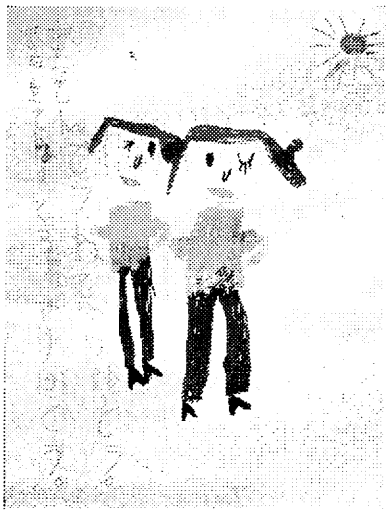
・「おじいさん・おばあさんと遊ぼう会」は，当園の恒例の行事で，祖父母も楽しみにしている。多くの祖父母の参加が見られ関心の高さがうかがわれた。

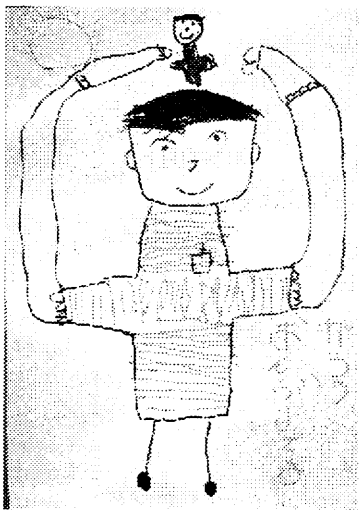
・遊具を作ってもらったり，遊びを教えてもらうことで，新鮮で楽しい経験となった。遊具作りで手ぎわのよさなどを見ることで尊敬や感謝の気持ちを味わっていた。また，幼児は身近な人々からの語りかけや励ましなどのコミュニケーションによって自信や優しさの心が育ち，人とのかかわりを広げていくことがわかった。
・お年寄りのユーモラスな表現や，温かい人柄に触れ，人とかかわる楽しさを感じることができた。
・祖父母は特技を披露することで，多くの園児に認められ，尊敬されたことで喜びを感じたと思われる。

祖父母の感想
・祖父母参観日は，とても有意義な一日でした。贅沢な玩具が増えている昨今素朴で懐かしい昔の玩具（沖縄の）ソテツの葉で編んだ虫かご，アダンの葉のカジマヤー（風車）を孫達と一緒に汗を流しながら作ることができて幸せでした。皆さんも孫を見る眼差しが微笑んでいました。
・祖父母と園児達の集いがあるとの事で緊張して登園した。私は竹トンボに挑戦し，与えられた時間を一生懸命子どもの頃を思い出すがままに作った。孫と竹とんぼを飛ばすに挑戦し，孫より自分が無心になっていることに気づいた。
日頃，触れ合いが少ない孫達との触れ合う素晴らしい機会を企画して下さいまして感謝しております。

4 実践例③ 中学生との交流

日時　平成１３年１２月１８日（火）９：００～１０：３０
対象　浦西中学校３年１組３２人　園児１２５人
ねらい　・中学生のお兄さん・お姉さんと交流して親しみや憧れの気持ちをもつ
　　・自分の思いを言葉で伝える。
環境の工夫　・園庭の整備と遊具の点検を行い，安全にあそべるようにする。
　　・異年齢での集団あそびを考える視点として，みんながよく知っていて楽しく遊べる教材を考え，ゲームやわらべ歌を取り上げる。ゲームは「いすとりゲーム」「はんかちおとし」に決まる。お面など必要なものを幼児と一緒に作る。又，わらべ歌は，お互いに触れ合って遊べるように，「でーじぬぐんかん」で，ジャンケンしながらリラックスできるようにと考える。





おんぶしてもらっているぼく

実践③中学生との交流

実践の様子	
受付 名札をつける	名札を並べてワクワクしながら、中学生が来るのを待ってる。中学生が到着して、受付の名札を見て、「私の名前があった」「うれしい」「名札がかわいい」「懐かしい」と、喜んでいる中学生。受付の園児は、体の大きい中学生に、圧倒されていた。
集まる 中学生 入場 歓迎の歌	中学生は、にこにこやさしい笑顔 在園児は、やや緊張ぎみでの，対面「わぁ，すごい，お兄さんたち高いね。」ドキドキワクワクの瞬間です。
ゲーム 「はんかちおとし」 フルーツバスケット」	＜じゃんけんの勝ち抜きゲーム＞ 真剣な表情 そして勝ったときには，「ワーイ」と歓声をあげ、笑顔で喜び合っている。じゃんけんするごとに仲間が増え，お互いに触れ合ってゲームを楽しんでいる。友達やお兄さん・お姉さんの応援をしながらゲームを進めている。なごやかな雰囲気で在る。
おやつ おやつを一緒にいただく	＜おやつ＞ 園児もすっかり、リラックスして幼稚園のことを話したり中学校のことを聞いたり、おしゃべりしながらいただいている。情報交換をしている様子，いい雰囲気でほほえましい。
園庭で遊ぶ 鬼ごっこ 木登り 固定遊具	＜園庭であそぶ＞ まず自分のことをアピールしている「ぼく，足が速いよ」「木のぼり上手」「見て，縄跳びの後ろ駆け足飛びができるよ。」と自分の得意なものを見てもらい満足している。「お兄さん、塀のぼりしよう」「お兄さん、フープの勝負しよう。」と，うちとけて遊ぶ。 「鬼ごっこするもの、この指とまれ」「お兄さんが鬼するから、みんな逃げて」と、お兄さん達が、遊びを進め手いる。又、お姉さん達を中心に‘花いちもんめ’の集団遊びを一緒に楽しんでいる。「ねぇ、こっちきて、おんぶして」と おんぶや、肩ぐるまをしてもらって、にこにこ笑顔の園児達でした。 園庭へ行くとき、抱っこされたり、手をつないだり、お兄さんにぶら下がっている。「ぶらんこもあるよ」「雲梯好き」「早く行こう」と，嬉しそうに 園庭を案内している。

中学生の気持ち

どんなふうに接したらいいのか？どんな話をすればいいのか不安な気持ちと，どんな子がいるのか楽しみな気持ち。

鬼ごっこは体力があってびっくりしたなあ。
肩ぐるましていたら幼稚園の先生が「一人っ子だから嬉しいはずよ」と言われ、張り切りすぎて少しつかれたなあ。

＜　バイバイ　＞

「見て、お兄さんから名札をもらったたよ。お家に飾っておこう！もっと、遊ぼうねって言っていたよ。と，なごりおしそうに，いつまでも手を振って見送っている。

縄跳び
フープ
花いちもんめ

さようなら

＜ お姉さんのあいさつ ＞

「今日、遊んで楽しかった人、短い時間でしたけど，姉ちゃんなんかも楽しかったです。昨日から楽しみにしていたから，又やる機会があったら遊びましょう。」

・小さいときに戻った感じで楽しく遊べたなあ。
・素直な気持ちにあえて良かったなあ
・保育は大変だな!
・いつまでも忘れない ，，，，，別れはつらいなあ，，，，，

＜子どもの声＞

・M子姉ちゃんと「フルーツバスケット」する時一緒にすわって，おやつの時も一緒にすわって，手を洗うのも一緒にならんで，友だちになった。
・お兄さん達が来たから，おんぶされたり，追いかけたり，さわったりして，楽しかった。
・肩ぐるましてもらった。鬼ごっこもやったし，はっぱ隊も踊って楽しかった。でーじぬぐんかんが一番楽しかった。

＜考察＞

・未就園児や小学生の交流と異なり、体が大きく力も強い中学生に対して、園児は体ごとぶつかっていき、おんぶや肩ぐるまなど,大胆な遊びが見られた。憧れの『お兄さん・お姉さん』とのかかわりは，胸が弾む反面，心配もあったようだ。そのお兄さん・お姉さんが自分に合わせて動いたり手助けしてくれたりしたので，喜びとともに安心感を抱き，生き生きした様子が見られた。いろいろな立場でのかかわりが幼児の育ちには，大切だと考えいい経験ができたと考える。

・園児が自分の特技や知っていることを伝え，認められたことで，さらに自信をもつことができた。自信をもつことで遊びへの意欲につながると共に，人へのかかわりが多くなっていくと考える。

・日頃，接することが少ない中学生とのかかわりは，親しみや感謝の気持ちをもつことができ，中学生と共に喜びを共感することができた。中学生にとっても，園児との交流は，集団をリードする力・責任感・思いやりの心が育ち，お互いが育ち合う触れ合いが育まれ，人とかかわる力が育っていくことが，わかった。

５検証保育　一日体験入園

検証保育指導案

日　　時：平成１４年１月１８日（金）　９時１５分～１０時３０分

対　　象：当山幼稚園児１２５名　新入園児

ね　ら　い：①新入園児と一緒に遊び，親しみや優しさ，お兄さん，お姉さんとしての喜びの気持ちを味わう。

②友達と思いを伝え合いながら，一緒に活動する楽しさを味わう。

主な活動：新入園児の一日体験入園

活動の経過：これまで，未就園児・小学生・中学生・高齢者との交流を体験してきた。今回は「新入園児の一日体験」と，いう在園児と年の近い幼児同士の交流になる。「自分達の幼稚園を紹介しよう」「当山幼稚園には，大きな木があって木登りできるよ」「砂場で，ダムや川も作れるよ」「ブランコに乗ってたのしいよ！」など，幼稚園をアピールしようと張り切っている。遊びのコーナーをつくり，在園児が自分の好きな遊びを紹介することになる。それぞれのグループに分かれて相談しながら進めている。本時では，戸外遊びを中心に在園児と新入園児が交流を図る。

環境の工夫　：事前に，園児と一緒に，園庭や固定遊具の点検をする。

広い園庭には，固定遊具・大きな木・草花・砂の感触を味わう砂場・走ったりできる広場・ままごとをするテーブルやいす・家庭と同じようなフライパン・鍋・など幼児が手に取って遊びたくなるような遊具・道具や場を用意しておく。また，小動物との触れ合うコーナーを段ボール紙で作り，絵を描いたり，固定遊具の係りは，遊具の名前や乗り方を書いた看板を作ったりしている 。グループの友達と相談しながら，教師も一緒に構成していく。

遊　び　の　内　容	係分担	留　意　点
1．受付･名札係（伊礼・宮城）	12名	・自分の係分担を知り、最後まで頑張る。(後片付けまで)
2．飼育動物と触れ合う（安座真）	24名	・小さい子に対して親切にする。 ・遊び方を教えてあげたり、危険のないように見てあげる。
3．砂場（幸地）・竹馬　（平田） ぽっくりげた	28名	
4．固定遊具（比嘉） 〔ぶらんこ、すべり台、シーソー 雲梯、ジャングルジム、一本橋〕	28名	※ 雨天の場合 ○ひまわり組 （巧技台、一本橋） ○たんぽぽ組 （まりつき、けん玉、こま回し）
5．舞台（宮城・玉城） ・エイサー　・手話ソング ・フープ　・けん玉 ・ダンス みんなおいで	32名	○すみれ組 （カルタ、すごろく、トランプ） ○あさがお組 （舞台のコーナー）

プレゼント	・各クラスで何をあげるか考えて、製作をする。 自分だったら何がほしいかな? どんなものをあげたらいいかな? ＊ 色画用紙の巻きこま１コ　2コ（ビニール袋に入れてリボンで結ぶ。） フィルムケースこま１コ ＊ ビニールたこなど
係について	・各係に分かれて話し合う　平成14年1月15日（火）10：00～11：00 1月16日・17日 ・各係の名札をつくる（名札の色） 受　付 … ピンク　舞　台 … 水色　固定遊具 … 黄色 飼育動物、他 … 黄緑　砂　場 … 紫　竹馬 … オレンジ

新入園児の一日体験入園

―― 幼稚園は楽しいな ――

当山幼稚園

日時	平成14年1月18日（金）　9：00 ～ 11：00		
ねらい	・新入園児と交流し、園を案内したり一緒に遊びを楽しむ中で，親しみや優しさ，お兄さん，お姉さんとしての喜びの気持ちを味わう。 ・友達と思いを伝え合いながら，一緒に活動する楽しさを味わう。		
時間	予想される幼児の活動	内容	教師の援助
8：15	○登園する ・あいさつをする。 ・持ち物の始末をする。	・すすんであいさつをする。 ・出席ノートにシールを貼る。 ・ジャンパーなどの厚手の上着を脱いで掛ける。	○ 明るくあいさつを交わしながら健康状態を把握する。
8：30	○朝の会 ・各クラスで集まる。	・今日の活動について話を聞く。	○“新入園児の一日入園”では年下の子どもたちに優しくかかわったり又、友達と一緒に遊び を進めていけるようにする。
9：00	○新入園児親子で登園する ・あいさつをする。	・新入園児の親子を迎える ・受付係は”みんなの広場”に机や名札を準備する。 ・名札には保護者に名前を書いてもらう。	○ 手作りの名札を準備する。 ○ 新入園児の親子に笑顔であいさつを交わし、「一緒にやってみませんか」など楽しく遊びに参加できるようにことばかけを していく。
	○ 戸外で一緒に遊ぶ。 ◇小動物と触れ合う。 ◇竹馬・ぽっくりげた ◇砂場 ◇固定遊具 一本橋・シーソー すべり台・雲梯 ジャングルジム ブランコ ◇舞台	・固定遊具や砂遊びを一緒に楽しむ。 ・竹馬やぽっくりげた乗り方を教えてあげる。 ・怪我をしないように気をつけて遊ぶ。 ・舞台のコーナーではパーランクーやカセットテープなどの準備をする。 ・新入園児を誘って一緒に手あそびやダンスをする。	○ 安全に遊べるように配慮する。 ○ 戸外で新入園児と体を動かして遊べるよう遊具を用意する。 ○ 年下の子を思いやり、遊び方 教えたり、モデルになったりしている姿を認め、年長児として の喜びが感じられるようにする。 ○ 友達と一緒に遊びを進めている姿を見守り教師も遊びに参加 して楽しい雰囲気にしていく。
10:00	○ 片付けをする	・遊びに使った物を元の場所に片付ける。	○ 新入園児も一緒に片付けができるように言葉をかける。

10:15	○全体で集まる （あさがお組） ・歌をうたう ・新入園児と一緒に遊んだことについて話し合う	・元気よく歌をうたう （当山幼稚園のうた すうじのうた）	○ 全体集会では“新入園児”は親子で一緒に参加できるように席を配慮する。 ○ 知っている歌をうたったり手品をしたりして温かい雰囲気に していく。
10:45	○各クラスでの交流 ・おやつ ・プレゼント贈呈	・在園児・新入園児・保護者と一緒におやつをいただく ・当番は牛乳やお菓子を配る ・在園児が作ったプレゼントをあげる。	○ 一日入園で年下の子や友達と遊んで楽しかったことや、頑張ったことなどを話せるよう援助する。 ○“新入園児”にプレゼントのこまやたこをあげる時、フィル ムケースのこまや巻きゴマの回し方を知らせていくようにする。
11:00	○新入園児は親子で降園する ・「さよなら」のあいさつをする。	・一緒に遊んだお礼の言葉や、さよならをする。	○「また、遊ぼうね」と次回に期待をもたせさようならをする。
11:45	○帰りの会	・今日一日の遊びについて話し合う	○“楽しかったこと”を話し合い 次回に期待が持てるようにする。
12:15	○降園 コース別に並んで帰る。	・明日への期待を持ちながら降園する。	○道草をしないように声をかける。

＜評価の観点＞

・ 本時の活動のねらいは，適当であったかどうか。
・ 幼児の活動の内容・教師の援助は適切であったか。
・ 幼児の活動を充実させるための環境の工夫は適切であったかどうか。

＜反省・評価＞

・在園児は園生活にも慣れて一つ年上の先輩として，新入園児の来園を心待ちにしている様子が見られ。友達と相談しながら進めていく中で，自分の思いを伝えたり，友達のよさを認めたり，共感したりぶかったりしながら，共通の目標に向かって意欲的に取り組むことができた。
・これまでの体験（小学生中学生との交流）から新入園児が喜ぶように『ポーターに乗せて，園を案内しよう』というアイデア がでたり，また，遊動木のグループは「強くこぎますか？」「優しくこぎすか？」と言葉をかけたり，相手に対して，思いやれる育ちにつながったと考える
・近所の子どもがやって来ることから，K子は，踊りを教えたり，靴の履き方を教えたり，普段よりさらに積極的なかかわりを見せる。「K子は踊りが上手ね。」とほめてもらい，満足感を味わったようだ。その子らしさがよさとして発揮できる場を設定することで，自分の存在感もち，自分の得意なもので人とかかわる力がついていくことがわかった。

Ⅶ 研究の成果と課題

Ⅰ 成果

・親しみやすい環境の工夫として，門（小学校・幼稚園兼用）が改修工事で新しく，明るい雰囲気にな

り，季節の草花も咲きみだれ「幼稚園に来るのが楽しみ！」と保護者の声や，未就園児のお母さん達も「きれいな，幼稚園ですね！」と声をかけてくださる。園児と一緒に季節の草花を植えたり，園内や地域の清掃を心がけたことで「行きやすい」園として親しみが持てたと考える。

・未就園児のお母さんより「幼稚園の交流保育は，いつでも歓迎ムードいっぱい，子どもと出かけるのが楽しみでした。」「お兄さん・お姉さんが声をかけてくれて一緒に遊具で遊んだり，すべて夢中になっていました。」などの感想をいただき，園児も小さい子と接することで，自分の力に気付き，役に立つ喜びを感じたり，相手に合わせることを学ぶことができた。

・未就園児・小学生・中学生・高齢者など多様な人とのかかわりの中で，人とかかわる楽しさ，温かさ，を感じお互いを理解し合い高め合い，共に育ち合うことがわかった。また，日頃の人間関係の中では見えない幼児の姿が見られた。幼児を多面的に理解できた。

・人的環境として，園内外の協力体制がこれまでの実践を支えてきた。また，教師の一人一人に対する温かいまなざしとゆったりとした広い心が求められ，教師間の協力も不可欠であることがわかった。

・人とふれあう活動を，幼児の発達の過程に沿って，幼児に育ってほしい教師の願いをねらいとし，また，体験の中で育つ幼児の心情や意欲・態度を内容として捉え年間計画に位置付け，活動を展開することができた。

2　課題

・「様々な人とのかかわり」を，幼児一人一人がどのように受け止め，どのように感じ，どのようにかかわっていたかを把握するための，教師間のチームティーチングの在り方を今後も探っていきたい。

・地域の人材バンクを活用していきたい。

おわりに

地域の人や異年齢との触れ合いを，人とかかわる力の育ちの面から理論・実践研究をしてきました。幼児は、幼稚園の中だけでは体験できない，多様な人々との触れ合いの中で，豊かな心や意欲・態度が，一人一人の幼児の内面に育てられていくことが確認できた。今後は，作成した年間指導計画を練り上げ，温かい人間関係の育ちの場として，異年齢の人との触れ合いを継続していきたいと思います。

研究期間中ご指導下さいました，浦添市教育委員会の知念敏枝指導主事，大きな心で励ましやさしく，丁寧にご指導して下さいました，当研究所の大城淳男所長，新川純子係長，山里昌樹主事，職員の皆様6ヶ月間共に過ごした研究員のメンバーに，深く感謝申し上げます。また，研究所に快く送り出してくださいました山内勝美園長，伊礼アツ子副園長，温かく見守りながら研究を支えてくださった当山幼稚園の職員の皆さんと１２５人の園児たちに，心から感謝します。

＜引用・参考文献＞

『幼稚園教育要領解説』　文部省　フレーベル館
『幼稚園教育要領解説』　森上史郎，高杉自子，柴崎正行 編　フレーベル館
『保育内容「人間関係」』　森上史郎，吉村真理子，後藤節美 編　ミネルヴァ書房
『保育内容「環境」』　高杉自子・森上史郎　編　光生館
『初等教育資料』　文部科学省教育課程課・幼児教育課編集
『計画的な環境の構成』　神長美津子 編著　チャイルド本社
『子育て支援・預かり保育』　小田 豊　編著　チャイルド本社